

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年2月24日

オミクロンサーージとともに再感染者が激増

【松崎雑感】

Natureの論説です。過去の株に感染歴があっても、オミクロン株には改めて感染する可能性が大きいという事です。

再感染しても重症化はあまりおこらないようですが、感染したから、あとは「コロナ無敵」とはならないようです。二次感染源となる恐れもあります。

まったく厄介ですね。

オミクロンサーージとともに再感染者が激増

Mallapaty S. COVID reinfections surge during Omicron onslaught. Nature. 2022 Feb 16. doi: 10.1038/d41586-022-00438-3. Epub ahead of print. PMID: 35173320.

新型コロナ感染歴があっても、オミクロン株に感染することが目立つ。しかし重症化率は低いまま

オミクロン株サーージとともに、再感染者が急増している。これまでの変異株サーージには見られなかった現象である。

過去の感染による免疫をすり抜けてオミクロン株が感染しているようだと言専門家は考えている。

カタルのワイルコーネル医学研究所感染疫学専門家ライス・アブラダ氏は、これまでの変異株と異なり、免疫すり抜け機能を沢山持っているのがオミクロン株だと述べた。

オミクロン株はワクチン免疫もすり抜けるようだ。現在アブラダ氏のチームは、以前の新型コロナ感染が作り出した抗体をすり抜けるメカニズムを研究中である。

「オミクロン株が感染免疫もワクチン免疫も乗り越えて感染する機能を持つことで今回のサージがもたらされている」とUCSCの感染症専門家マーム・キルパトリック氏は語った。

再感染による感染患者の増加に医療機能が耐えられるかどうかが問題だと、メルボルンのディーキン大学の疫学者キャサリン・ベネット氏は語った。

再感染

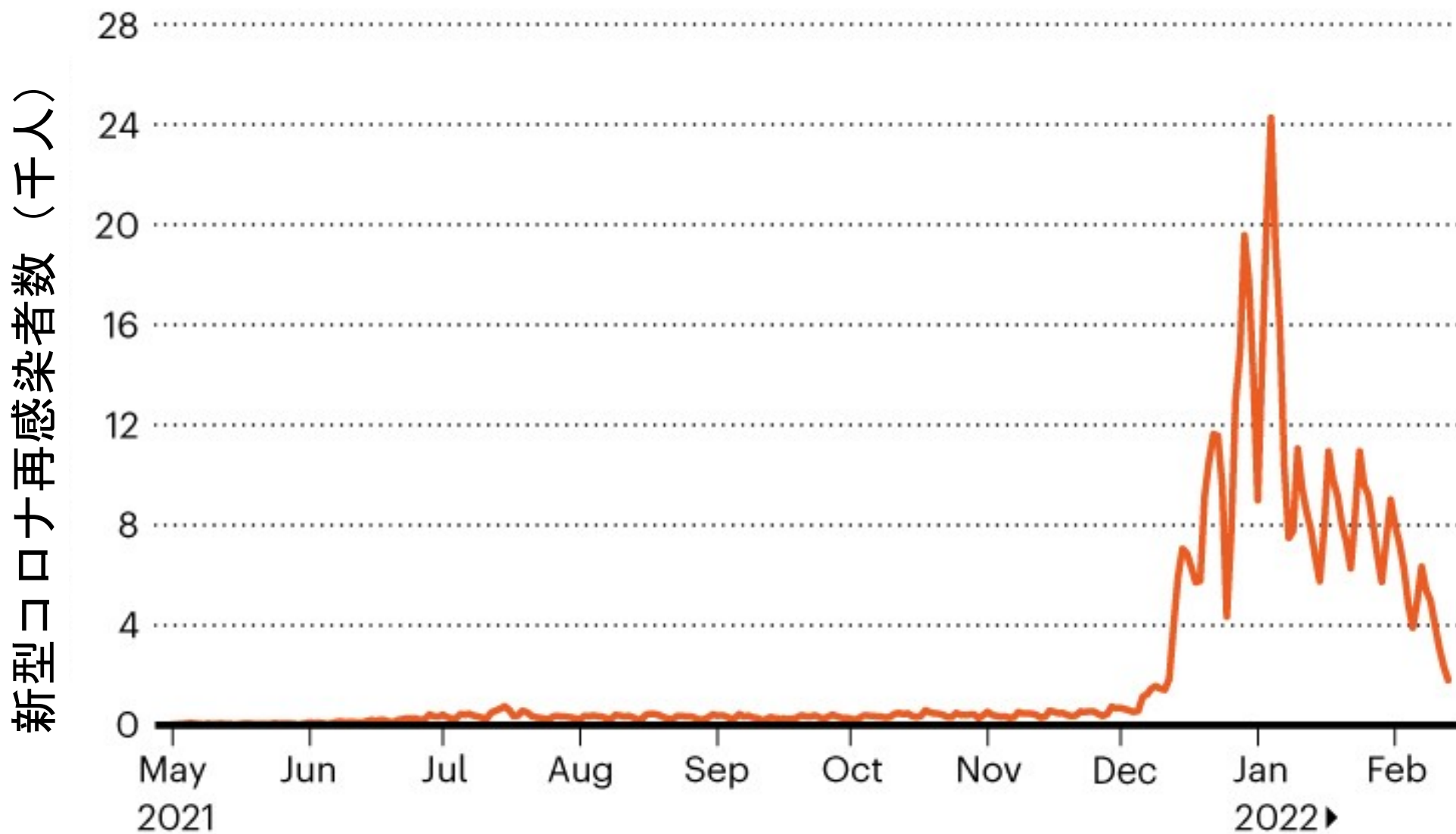
オミクロン株が過去の免疫をすり抜けることは、まず南アフリカから報告された。

昨年11月、これまでの変異株サージにおける再感染率が、オミクロン株サージで明らかに増加していることを突き止めた[1]。

その後世界各地で同様のデータが発表された。

再感染者の増加

イングランドでは65万人以上が新型コロナに再感染している。



大半は昨年11月のオミクロン株サーージ以降に発生した。

イングランドでは、現在までに65万人が新型コロナに再感染している。大半の再感染が最近2か月に発生している。

イギリス保健庁は、最初の感染から3か月以上経過した後の新型コロナ感染を再感染と定義しているが、本当に再感染か最初の感染の再燃であるかは、ウイルスの遺伝子解析を行わなければ断定できないとしている。

昨年11月中旬以前には、再感染率は1%程度だったが、現在10%台に増加している。

イギリス国家統計局はこの2～3か月、無作為抽出ベースの継続的調査によって再感染者の急増を観察している。

最初の感染から4か月经つと、再感染が増加するというデータが得られた。オミクロン株流行中の再感染リスクは、デルタ株流行中の16倍に増加していた。

しかし、この数字は過小評価のおそれがある。無症状感染が多いことと、最初の感染から火が経たないうちに再感染する可能性があるためである。オミクロン株が急増した地域ではこの傾向がつかよくと、ベネット氏は考えている。

彼女は、再感染の波が高い理由をいくつか指摘している。オミクロン株流行により、より多くの人々がウイルスにばく露されていること、ばく露から発病までの期間が短いため、二次感染の機会が増えること、そして、免疫をすり抜ける能力が高いためなどを挙げている。

免疫すり抜け

今月のニューイングランドジャーナルで、アブラダド氏らのチームが、カタルからオミクロン株の免疫すり抜け状態に関するデータを発表した。それによると、過去に新型コロナウイルス感染歴のある場合、アルファ、ベータ、デルタ株に対する感染防止効果は90%以上だったが、オミクロン株に対しては56%まで低下していたという。

しかし、アブラダド氏は、このデータを望ましいと受け取っている。大半の二次感染は初回感染から1年程度経過してから発生しており、最初の感染の免疫が、結構長い期間保たれることを示すことになるからである。

ちなみに既感染免疫による重症化防止効果は、オミクロン株に対して88%と極めて高い。

しかし、南アフリカのワイトウォーターズランド大学ワクチン学者シャビル・マディ氏は、このデータが、無症状感染者や軽症感染者の存在を計算に入れていないため、オミクロン株に対する既感染免疫の効果を過大評価している可能性がある」と指摘する。

彼は、オミクロン株に対する効果は、さらに低いだろうと考えている。ちなみに、オミクロン株以前の変異株に感染した人々の中和抗体がオミクロン株を防ぐ力は大きく削がれていることが明らかになっている[3,4]。

アブラダド氏は、再感染の状態を研究することにより、新型コロナウイルス感染症が、パンデミックからエンデミック（地域的流行疾患）に移行する道筋を明らかになるだろうと述べている。